

# 春の火災予防運動

3月1日から  
3月7日まで

令和8年

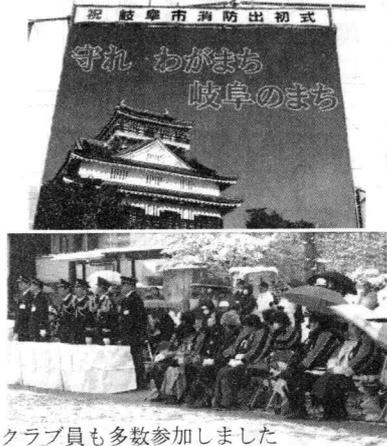
岐阜市消防出初式

急ぐ日も

令和7年度 足止め火を止め

全国統一防火標語

準備よし



クラブ員も多数参加しました

# 女性防火クラブだより

発行所：岐阜市女性防火クラブ運営協議会事務局  
〒500-8812 岐阜市美江寺町2丁目9番地  
☎058-262-7163  
令和8年3月1日号  
(通算第54号)

三月一日から七日までの一週間は、春の火災予防運動の実施期間です。

この運動は、火災が発生しやすい季節を迎えるにあたり、火災予防思想の一層の普及を図ることなどを目的に、毎年実施されています。

今年度の全国統一防火標語は『急ぐ日も 足止め火を止め 準備よし』です。火災予防運動期間中には、全国各地で防火に関する様々な行事が行われます。岐阜市消防本部では岐阜

市消防団と岐阜市少年消防クラブが合同で、パレード又は広報活動を実施し、地域のみなさまに火災予防を呼びかけます。

平成二十三年六月一日からすべての住宅に義務化となっている住宅用火災警報器の岐阜市における設置率は、現在八割強となっています。

火災に早く気づいて、大切な命を守るため、未設置の住宅は早期に設置をしましょう。そして、設置されている方は、維持管理、お手入れは行っていますか。この機会に是非、今一度点検してみましよう。



## 令和七年 岐阜市火災概要

令和七年一月一日から十二月三十一日に岐阜市内で発生した火災の総件数は百十二件で、前年の百五件と比べると七件増加しました。

出火原因は、「電気関係」が二十一件で最も多く、次に「こんろ」が十五件でした。

火災による死者は二人で、前年と同様でありました。

火災による負傷者は、十六人で前年の二十人と比べると四人減少しました。

建物火災の件数は、六十九件で前年と同様でありました。建物火災のうち住宅火災は三十九件で、建物火災全体の約六割を占めています。

火災による損害額は、約九千八十三万円で、市内で大規模な倉庫火災が発生した前年と比べると、約二億七千七百八十五万円損害額が減少しました。

## 「感震ブレーカー」で地震火災対策を

過去の大地震では建物の倒壊だけでなく、電気に起因した火災の被害が多く発生しています。「感震ブレーカー」は震度五強相当の揺れを感知して、電気を自動で遮断し、地震による電気火災の発生を防ぎます。

**感震ブレーカーの種類**  
○分電盤タイプ 分電盤が揺れを感知し、一定時間の後建物全体の電源を遮断します。分電盤自体に機能が備わっているものと、分電盤に後付けで設置するものがあります。

○コンセントタイプ コンセントに設置し、建物全体もしくは特定の家電の電気を遮断します。

○簡易タイプ バネや重りにより物理的にブレーカーのスイッチを落とす仕組みのもの。ホームセンターなどで購入することが可能です。



感震ブレーカー情報  
(岐阜市ホームページ)

各地区の女性防火クラブから

「鶴女性防火クラブの活動」

鶴女性防火クラブ

会長 野本 知未

鶴女性防火クラブは昭和五十一年に結成されました。鶴女性の会を母体に今年度は二十七名のクラブ員で活動しています。

今年度の活動の一つとして地域の方も交えての防災研修会を実施いたしました。

『家庭でできる防災対策』をテーマに、岐阜市危機管理課の職員の方より南海トラフ地震がいつ起こってもおかしくない現在、家庭備蓄（ローリングストック）・家具の固定対策・災害時のトイレ・ハザードマップの確認等、災害にどのように備えるかを、お話し頂きました。

その中で、地震・台風などに関する情報が配信される「ぎふ防災安心メール」、岐阜市LINE公式アカウントや、地震を感じし電気をストップさせる「感震ブレーカー」の紹介がありました。

質疑応答の時間では活発な意見が交わされ、参加者から「早速メールに登録したい」、「防災意識が低かったが研修会をき

っかけに日頃から備えることの大切さに気付いた」、など多くの感想をいただき好評を得ることが出来ました。

次に「指導員講習会」では、クラブ員五名が参加し、応急手当、大地震への備え、住宅防火について学びました。

また校区民運動会では女性の会で実施したバザーの中で「防災グッズキング」、「防火防災ミニガイドブック」を配布しました。子育て世代の方を中心に、多くの皆さんに手に取っていただきました。

大災害は私たちのまわりでいつ起こるか分かりません。だからこそ、私たち一人ひとりが防火・防災への理解を深め、備えることが求められています。

これからも各種団体の方々や地域の皆さんとのつながりを大切にして、地域に貢献出来るよう活動を続けて参りたいと思います。



「本荘女性防火クラブの活動」

本荘女性防火クラブ

会長 加野 真希子

本荘女性防火クラブは、本荘自治連合会地域各団体のご支援ご指導のもと、二十名のクラブ員で活動しています。指導員講習会への参加や体験学習などを通して、防災災害について学ばせていただいております。

クラブ員活動では、防災用品としてペットシート、防臭袋を利用し緊急のトイレセットを作成しました。平時に実際に使用して問題点などを共有し改善していきたいと考えています。

体験学習では、岐阜県広域防災センターへ出向き、消火器訓練、濃煙迷路体験、地震体験をしました。濃煙迷路では三百メートル歩きましたが、全く前も足元も見えないため壁伝いに進むしかなく、足元に物があるとつまづいてしまうので避難通路となりそうな場所は日頃から片付けておくべきだと感じました。

地震体験では、一八九一年に起こった濃尾地震と今後起こると想定されている南海トラフ地震を体験し、それぞれ揺れ方が違いましたがどちらも掴まっていなくても立っている事ができない

ほどでした。体験の率直な感想は『怖かった』です。実際に地震が起きた場合、恐怖の中冷静に行動できるのだろうか、と考える機会になりました。体験室の中の家具などは散乱していて家具を固定することの重要性を実感しました。

本荘小、中学校では防災学習や防災運動会があり、子どもたちが自分で考えて行動するという体験活動などが行われました。その中で各年代、性別、外国人の方などそれぞれの困り事がある事を学びました。校長先生のお話で災害時に一番大切なことは、『思いやり』であるというお話があり、防災や災害の知識も大切ですが、『思いやり』の気持ちに伴ってこそ学んだ事が生きてくるのではないかと感じました。

本荘校区では地域各団体、小中学校など日頃から情報交換がされており、個人情報などの問題もある昨今ですが、やはり災害時には地域の繋がりが不可欠と感じております。日頃から独居世帯を気にかけるなど地域の方々の共助を意識しながら今後も活動していきたいと考えております。